

明神川ウォーク

設立総会から5日後の11月24日(土)、明神川ウォークを開催し15名の参加者で「春の小川」の候補地を求めてカワヨグリーン牧場周辺を散策しました。

最初の発見は「冬桜」①…こんなに寒中、可憐な白い花をつけた木が私たちを出迎えてくれました。つづいて「ヤドリギ」②…落葉樹に寄生する木で、薄緑と赤い実をつける種類があるということ、参加メンバーが教えてくれました。(感激でした!)

道から外れ少し奥に入ると「つぼころ池」③…に着きました。つぼころ池には、フナや小さな魚がいるようです。

立ち止まりながら、あれこれ観察して歩いていると、ところどころに湧き水があり、春の小川がイメージできました。

次は、いよいよ「つぼころ沢」④へ。物語に出てきそうな素敵な名前のその場所は、ぬかるみを乗り越え、やっとたどりついたので、一同感動の出会いでした。静かな森に囲まれ、硬い地盤の奥から湧き出る水に、しばし、ここがわが町であることを忘れていました。

険しい斜面をみんなで登り、更に歩き「つぼころ山」で、若き「ブナの林」と「オオウバコリ」⑤…の神秘的な種と出会いました。

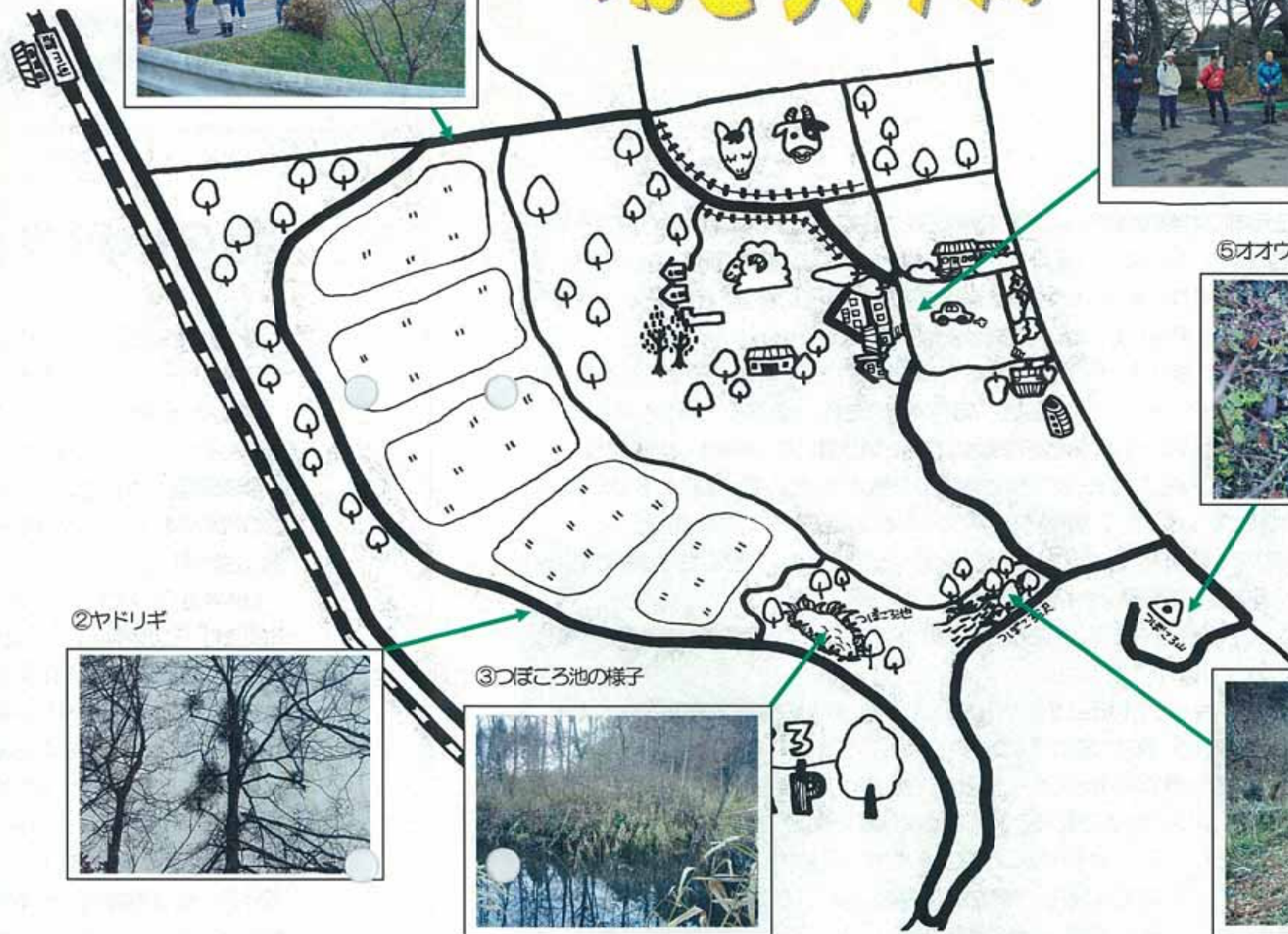
最後は、スタート地点のロッジ駐車場⑥に着き、楽しく、素晴らしいウォーキングは終了しました。

是非、次回もっとたくさんの方々と自然を感じたいです。

①冬桜がさいっていました



つぼころマップ



⑥ロッジ駐車場に集合



⑤オオウバコリの種



②ヤドリギ



③つぼころ池の様子



④つぼころ沢に行く



◎ピオトープ研修会

【日時】2月28日(土)14時~

【場所】カワヨグリーンロッジ

◎カタクリ植栽

【日時】5月2日(土)10時~

【場所】カワヨグリーン牧場

◎第2回役員会

3月に予定しています。



もうひとつの、私の「春の小川」

北国の春は遅く、待ち遠しい...。目を閉じると脳裏に浮かぶのは、雪解けが雨といを伝う音、ちよろ...ちよろ...「あー、春が来たんだ」と実感し、心が浮き立つような感覚を今でもはっきりと覚えている。自然の宝庫だった昭和の古き良き時代。舗装のされていない草むらの道を歩いて足首に虫かき必死に走った雨上がりの午後...。U字溝のない、土がむき出しの川に足を滑らせてはまったこともある。四季を通して、山や川・草や木に触れていた。懐かしさがみよする私の「春の小川」。

「明神川」と「つぼころ沢」

■明神川は、その源をおいらせ町と六戸町との境界付近の台地に発し、なだらかな丘陵地を南東に流下し、おいらせ町の市街地を東流した後、太平洋に注ぐ、流路延長11.7km、流域面積24.3km²の二級河川です。■カワヨグリーン牧場前の(字)外小橋の水田を流れる部分は、明神川の上流部にあたり、つぼころ沢は、流域でも最大規模の湧き水となっています。

その周辺で、後の上閉伊・下閉伊よりも北である可能性が高い。一戸町御所野(つしよ)の古墳群(八戸市丹後平(たんごたい)古墳群、上北郡おいらせ町阿光坊(あこうぼう)古墳群は、それぞれ爾薩体、幣伊、都母の地域を代表する遺跡である。

■つぼころ沢という変わった名称については、阿光坊の郷土史家、故成田健康氏は、次のように書かれています。
「阿光坊北方原野(通称三本木平)の傾斜地に、つぼころの沢(つぼころの沢の意)と云って大きな穴から清水が渾々と湧き出している所がある。其の附近の土中から夥しい土器(はじき)の破片が露出していた(大正末期頃)。その他無数の住居跡の竪穴が点在していた(経3間×4間、深3尺位)。大昔此の地方に先住民が沢山住んでいた事が分る。都母と「つぼ」の音が似ているので何等かの関係があったものであろうか。」
■つぼころ=都母については、工藤雅樹氏は、岩手日報連載(二〇〇六年五月六日)で次のように書いています。
「都母(つも)村は、青森県上北郡七戸町(旧天間林(てんまばやし)村)の坪(つぼ)に名を残しており、上北地方である。幣伊(へい)村、都母村は隣接していたであろうから、幣伊村は、爾薩体(にさつたい)村と都母村の中間の、八戸市と